

情報通信審議会 情報通信技術分科会
陸上無線通信委員会（第 12 回）
議事録（案）

1 日時

平成 26 年 6 月 6 日（金） 14:00～14:50

2 場所

中央合同庁舎第 2 号館 総務省 8 階 第一特別会議室

3 出席者（敬称略）

主 査：安藤 真

専 門 委 員：飯塚 留美、伊藤 数子、大寺 廣幸、川嶋 弘尚、菊井 勉、
河野 隆二、小林 久美子、本多 美雄、松尾 綾子、
矢野 由紀子、吉田 英邦、若尾 正義

オブザーバー：居相 直彦

事務局（総務省）：（移動通信課）布施田課長、五十嵐課長補佐、伊藤課長補佐、
土屋第一技術係長、西森第二技術係長
（新世代移動通信システム推進室）
森下室長、上野課長補佐

4 配付資料

資料 12-1-1 陸上無線通信委員会（第 10 回）議事録（案）

資料 12-1-2 陸上無線通信委員会（第 11 回・メールでの検討）議事概要（案）

資料 12-2-1 76GHz 帯小電力ミリ波レーダーの高度化に関する技術的条件の検討開始について

資料 12-2-2 76GHz 帯小電力ミリ波レーダー作業班構成員（案）

資料 12-3 280MHz 帯センサーネットワークに関する提案募集の結果について

5 議事

(1) 前回の議事概要案の確認

事務局から資料 12-1-1 及び 12-1-2 に基づき説明が行われ、（案）のとおり、了承された。

また、「業務用陸上無線通信の高度化等に関する技術的条件のうち、基幹系無線システムの高度化等に係る技術的条件」について、5 月 21 日に開催された第 103 回情報通信審議会情報通信技術分科会にて答申を受けたことが報告された。

(2) 76GHz 帯小電力ミリ波レーダーの高度化に関する技術的条件の検討開始について

事務局から資料 12-2-1 に基づいて説明が行われ、了承された。なお、具体的な質疑等は以下のとおり。

安藤主査：平成 11 年制度化時、占有周波数帯幅は 500MHz だった。答申では 1GHz ということは、1GHz 幅について基本的な検討は終わっているのか。

事務局：平成 9 年当時の答申から年数が経っており、80GHz の広帯域伝送システムの出現など状況が変わっているので再度ご検討願いたい。

安藤主査：総電力は変えずに周波数幅だけを広げるのか。

事務局：そのとおり。

河野委員：参考 2 にもあるが、76GHz と 79GHz、79GHz 帯は世界的に見て UWB レーダーとして検討が終わった。測定距離範囲について、26GHz/79GHz 帯はショートレンジレーダーに対し、76GHz 帯はより長距離の測定を行うもの。今回の検討におけるこのあたりの

位置づけについて教えてほしい。場合によってはショート/ロングレンジのレーダーを同一規格にしてしまうことも可能なのではないか。

事務局：76GHz から 81GHz までの 5GHz 幅は世界的に車載レーダー。500MHz だけはまだ一次分配されていない。その中で 76GHz 帯は 1GHz 幅まで出せるところ、日本だけが 500MHz 幅に絞っていた。国際標準に合わせるのが今回の中身。今回幅を広げる際も、76GHz は従来どおり長中距離レーダーの位置づけのまま。79GHz 帯は周波数共用の関係でパワーが出せないの、将来的には UWB レーダーをこの帯域に移行していく前提。測距距離は 70m まで。分解能は 20cm 程度。中近距離のレーダー。1GHz 幅の 76GHz 帯のレーダーと 4GHz 幅の 79GHz 帯のレーダーは基本的には別のものと理解している。

菊井委員：ミリ波は現在どれくらい使われているか。

事務局：車載のセンシング手段としては電波、写真、赤外線、超音波などがある。電波は明暗、天候・環境の影響を受けないという特性から使われている。平成 23 年度末で 15 万台。60GHz 帯レーダーで 2.2 万台。新車販売台数が 500 万台/年なので、ある程度高価なシステムだが、広がると安価になると期待。

河野委員：ミリ波技術の出口になるという意味でウェルカムなことだと考える。76GHz と 79GHz はアンテナや RF をある程度共有できる。

(3) 76GHz 帯小電力ミリ波レーダー作業班構成員について

事務局から資料 12-2-2 に基づき説明が行われ、作業班の設置について了承された。

(4) 280 MHz 帯センサーネットワークに関する提案募集の結果について

事務局から資料 12-3 に基づいて説明が行われた。なお、具体的な質疑等は以下のとおり。

安藤主査：提案募集の結果として、技術的な提案はされているが、料金イメージ等ビジネスモデルとしての観点が見えていないとのこと。ここで議論して、すぐに検討開始すべきだ、ということであれば検討開始するし、モデル実験を実施してニーズを具体化してから検討開始しても良いのではないかと事務局から提案があった。ニーズの顕在化を進めてから検討開始するのが良いのではないかと考えるが、委員の意見をいただきたい。なお、提案募集は意見が出ればすぐにやる、との体制は整えたい。

河野委員：主査に賛成。需要の発掘ということで、関係の団体への積極的な情報展開もあってよいのではないかと。

安藤主査：河野委員の意見に賛成。学会で特集のセッションを組むという方法もある。そうすることで、世界的な動向や技術的な意見等を得ることができる。

事務局：検討に入らないからといって、実用化が止まるとは考えていない。提案者による実験試験局でモデル実験を進めて行くとともに、河野委員からご指摘いただいた学会等への情報展開を行っていききたい。

全国一律のサービスにとらわれず、地域ごとのアイデア、ニーズを発掘できたら良い。そこから実験試験局でトライアンドエラーを行ってもらえるようにしたい。

安藤主査：今回提案のあった 3 件を学会でプロポーザルするだけでいろいろな意見が出されるはず。

引き続き門戸は開く、と事務局からもご説明いただいたので、もう少し検討を進めるとともに、もし素晴らしい提案があればすぐにでもこの場で検討することとした。

(4) その他

事務局から 7 月 3 日に次回委員会を開催予定であるとの説明が行われた。

(閉会)